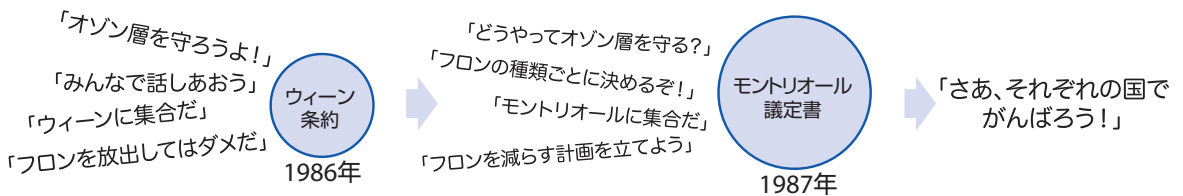


4

フロン規制のための国際的なルール

ウィーン条約とモントリオール議定書

オゾンホールが発見され、オゾン層を壊すフロン^{せいぞう きんし}の製造を禁止^{きんし}していこうという動きが世界的に広まってきました。1987年には、カナダのモントリオールでフロンをいつまでにどれだけ減らすかを決めた約束「モントリオール議定書^{ぎていしよ}」がつくられました。2012年現在、モントリオール議定書には世界197カ国が参加しています。



地球温暖化防止のための条約と議定書

地球温暖化防止に向けて、1997年に京都で行なわれた気候変動枠組条約第三回締約国会議^{へんどうわくぐみじょうやく ていやくこくかい}（COP3）で、温室効果ガス^{おんしつこうか}を減らすための約束「京都議定書」が結ばれています。この京都議定書の対象^{たいしやう}として、二酸化炭素などのほかに、オゾン層を破壊しないフロン類も入りました。2008年から2012年までが最初の約束期間（第一約束期間）で、そこでは日本も90年に比べて6%減らすことを約束していました。ところが、2013年以降の次の約束期間（第二約束期間）では日本は「温室効果ガスを減らす義務は負わない」と宣言してしまったのです。

